

B 福祉保健分野

B-01 離島における医療・介護サービスの確保

離島に暮らす島民が医療等を必要とする場合は、船やバスなどを乗り継いで島外の医療機関などを利用している。

例えば、豊浜町にある齋島の島民が病院に行く際には、1日5便の定期船を利用して豊島に渡り、そこからバスを利用して下蒲刈町にある公立下蒲刈病院や本土にある中国労災病院等の医療機関を受診しているが、荒天時などは船が欠航して受診できないケースや、病院への往来が1日がかかりとなるなど、島民にとって大きな負担となっている。

島民の高齢化が進む中、現在整備が進められている光通信回線なども活用しながら、齋島における医療や介護サービスの利用を定期的に確保していくための方策が考えられないか。

【参考】

呉市豊浜地区にある齋島の居住者 8世帯11名(令和3年3月末時点)

島民のほとんどが高齢者となっている。



B-02 市民の健康づくり, 生活習慣の改善支援

呉市では、第3次健康くれ21の基本目標に『健康寿命日本一のまち「くれ」の実現』を掲げ、市民が心身ともに健康で心豊かな暮らしを実感できるようライフステージに応じた健康づくりの取組を包括的に推進している。

これまでも糖尿病、高血圧症、脂質異常症といった生活習慣病が患者数、医療費とも上位を占めていることから、生活習慣病予防のため、健診やレセプト情報からリスクがある者を抽出し、データを活用したさまざまな保健事業を実施しているが、依然として健診の受診率や保健指導の利用率は高くない状況であり、健康無関心層を含めた市民へのアプローチが課題であると認識している。

近年の新技术等の活用によって、民間等においても日々の食生活や身体活動の状況等を本人に見える化し、健康との関係に気づきを与えることで自然と改善に取り組むためのサービスも普及してきている。

呉市としても、あらゆる市民を対象として、健康づくりに対する意識を高める方策や効果的なサービスについて検討したい。

【参考】

第3次健康くれ21(健康増進計画, 食育推進計画)

<https://www.city.kure.lg.jp/soshiki/59/kenkou-kure.html>

B 福祉保健分野

B-03 障害者の生活支援や就労支援の充実

呉市では、障害者が安心して安全・快適に暮らしていくため、呉市障害福祉計画の目標に「障害のある、ないにかかわらず みんなが安心して暮らし、学び、働き、交流し、挑戦できるまちの実現」を掲げ、ニーズに対応した障害福祉サービス等の提供や障害者の自立支援、社会参加の促進に取り組んでいる。

しかし、特に在宅で福祉サービスを受けている障害者などは、社会とつながる機会が少ないことや、障害者だけでなく障害者の家族を含む無償の支援者(いわゆるケアラー)へのサポートなども今後取り組むべき課題となっている。

また、障害者の自立につながる就労支援においても、就労を希望する障害者のニーズが高いにも関わらず、依然として一般就労への移行は低調であり、また福祉的就労である就労継続支援事業所(A型・B型)の平均工賃も国や県の平均よりも低い水準となっている。

どのような障害があっても、地域(呉市)で安全・快適に暮らせる共生社会の実現を目指していく上で、こうしたさまざまな課題を新技術等の導入によって解消できないだろうか。

【障害者の地域生活支援】

- ・障害福祉サービス内容の充実(生活の質の向上)
- ・外出困難者のVR・AR技術等を活用した遠隔操作での社会活動参加・就学、孤独の解消
- ・障害者を支える家族等の負担軽減、地域で支える仕組み など

【障害者の就労支援の充実・雇用促進】

- ・就労体験機会の拡大、就労支援の多業種化
- ・従来の形にこだわらない雇用促進(リモートワーク・遠隔作業等)
- ・工賃向上につながる販路の拡大 など

【参考】

呉市障害福祉計画・呉市障害児福祉計画

<https://www.city.kure.lg.jp/soshiki/56/5kihonn-6fukushi-2jifukushi.html>

B-04 移動が困難な高齢者等の日常生活支援

呉市は、旧海軍の発展に伴って都市基盤の整備が進められ、平たん地の周辺部が急速に宅地化されたため、家屋が斜面地に密集する特徴的な土地利用形態となっている。

例えば、旧海軍工廠のあった場所に近い宮原地区の住宅密集地域では、自動車が通行できないような狭い道、傾斜のきつい坂道・階段が多いことに加え、地域全体の高齢化が進んでいることから、高齢者の移動が困難で、買い物などの日常生活にも支障を来す状況が見受けられる。

1 高齢者等への買い物支援

宮原地区の両端に大型商業施設(スーパーマーケット等)が2店舗あるが、その間の約3.5kmの区間に住宅等が密集しており、利用者の多くは自家用車や公共交通機関(路線バス等)でしかアクセスできない状況となっている。

また、自宅前に自家用車を横付けできない箇所も多く、日用品を購入する商店もほとんどないため、地区の高齢者は「買い物弱者」となっている。

このような移動が困難な高齢者にとって、新技術の導入により買い物での不便さを解消できるような方法は考えられないか。

2 高齢者等への移動系介護サービス

傾斜のきつい坂道や階段が多い当該地区では、歩行に危険を伴う場所もあり、車いすなどの介護用具の使用も困難なケースがある。

高齢者をはじめとした移動困難者が、住み慣れた場所でいきいきと暮らしていくことができるよう、ICT等の先端技術を活用して自由に移動できる環境をつくることはできないか。

B-05 高齢者等要支援者の安全・安心の確保

全国的に少子高齢化が進んでいる中、呉市においても地域の人口減少や高齢化等に伴い、高齢者の独り暮らし世帯の増加、認知症等の進行などにより、高齢者や障害者等の支援を必要とする方々が増えている。

こうした支援を必要とする方と地域との関わりが希薄となれば、体調が急変した際にも助けを求めることができず、孤独死となるケースもある。

要支援者の孤立を防止するためには、近隣住民や自治会等の地縁団体、民生委員などによる見守り活動など、多くの人々が関わる地域全体としての取組が必要だが、地域との関わりを拒むなど状況を把握できないケースもある。

1 見守り体制の強化

現在は、個人宅を訪問する企業や事業者との協力により、見守り体制の強化にも取り組んでいるが、新技術の活用により、要支援者の変化(異常)をいち早く関係者が感知できる方法が考えられないか。

また、認知症等の方に対する救急業務の場合、必要な情報(病歴、かかりつけ医、緊急連絡先等)の収集が困難となり、結果的に病院への搬送が遅延してしまうこともあるため、必要な情報を迅速に収集することが考えられないか。

2 行方不明時の早期対応

特に認知症等の方が行方不明となった場合には、行動範囲を特定しにくく、検索エリアの絞込みが困難で発見までに時間を要する場合がある。

こうした方々の安全を確保する上で、早期に発見し対応する必要があるため、移動履歴等を容易に特定できる仕組みが考えられないか。